

平成24年度
第3回藤島地域審議会
会議録(概要)

期日：平成24年11月15日(木)

場所：藤島ふれあいセンター「多目的室」

第3回藤島地域審議会会議録（概要）

日 時 平成24年11月15日(木) 午後3時～

会 場 藤島ふれあいセンター「多目的室」

出席委員（五十音順） 15名

阿部正良、安藤良昭、奥山康光、小野木覺、上林節子、齋藤泰宏、佐藤一晴、

澁谷俊一、相馬大、高山千代子、富樫達喜、富樫正明、松浦伸、丸山鎮、渡部綾子

欠席委員 5名

上鉢浩美、高橋徳雄、富樫菊子、成田元気、堀口大介

出席事務局職員

本所 市民部次長 門崎秀夫、市民部調整主幹 佐藤正哉、

コミュニティ推進課主査 清野 健

企画調整課長 高坂伸司、企画調整課主査 佐藤豊、

企画専門員 伊藤弘治

藤島庁舎 支所長 中村眞一、総務企画課長 今野克雄、総務企画課主幹 本間

光夫、市民福祉課長 丸山隆逸、産業課長 五十嵐武、産業課主幹 上林

正利、東部建設事務室長 高橋親孝、東部税務事務室長 山口弘男

次 第

1、開 会

2、会長挨拶

3、協 議

（1）鶴岡市総合計画実施計画の策定について

（2）鶴岡市地域コミュニティ基本方針の策定について

（3）藤島地域審議会の審議テーマ（案）について

・テーマ「藤島の魅力を活かした交流人口の拡大方策について」

・議論の視点 農業資源を活かした交流人口の拡大について

ふじ公園（歴史公園）を活かした交流人口の拡大について

庄内農業高校との連携による地域活性化策について

その他

4、閉 会

【 会議の概要 】

1、開 会 （今野総務企画課長）

2、会長挨拶 （小野木会長）

3、協 議

（ 1 ）鶴岡市総合計画実施計画の策定について（企画調整課より）

庄内南部定住圏構想について（企画調整課より）

（質疑応答）

丸山鎮委員 小真木原や藤島の体育館は、来年あるいは再来年から指定管理者制度になるということです。我々、体育協会は、今まで市の方と体育協会が両輪のごとく体育振興を図って来た訳ですが、これからどうやるのか市の方からの問いかけは無く、藤島体育館の指定管理はどういう風になるのか、藤島の体育振興はどう図るのか、大変心配している所です。そんな目でこの資料を見ましたが、体育振興に関係する所は、スポーツ推進計画の策定という所にこれまでの取組み状況が載っていますが、これを見ると何もしていないと見える訳です。国のスポーツ基本計画は昨年できて、県のスポーツ計画は現在策定中、市の方はこれから考えるという中身です。しかし実態は指定管理者制度が導入されて、これからどうなるのか体育関係者は大変心配している所です。その辺の所、お聞きしたいと思います。

高坂企画調整課長 昨日、鶴岡地域の審議会でも、稲泉会長の方から「スポーツの記述が薄い」とご指摘を頂いた所です。この当たりの記述について、もっと強化すべきと反省している所です。この協議資料については、24年～26年度の市の色々な施策の主なものを記載した実施計画です。この中でスポーツ関連の施策については、3つの施策を取り上げています。体育施設の管理運営については、いろいろ現場とやり取りをしながら進めている状況だと思いますが、実際の現場での内容は、私の方では掴んでおりません。きちんと説明をしながら取り組みを進めるようにという趣旨のご意見だと思いますので、所管課にお伝えしたいと思います。

相馬大委員 この実施計画で鶴岡市よくなりますか？いろんな課題も全部、網羅されていて、色々な対策も打っていると思いますが、これは全部、既存のレールの先だと思ふのです。今までの流れのままやってきて全体的に沈んでいくのは、日本どこにいても同じだと思ふのです。今までと同じことをやっていて、この地域がよくなると思えない。これでは次の世代がこの地域で、結婚しよう、子供生もう、この地域に

住もうと思える地域になるとは思えないのです。それは今までこの地域を作ってきた我々の責任でもあると思います。もう少しゼロベースで組み立てて、本質的に大きく改革、転換するような視点があってもいいのではないかと思います。

高坂企画調整課長 大きな転換が実現できれば、非常にいいなと思う所です。そのためにぜひ委員の皆さんからも、こういう風な形で取り組みを進めるべきではないかと具体的な意見を出して欲しいです。榎本市長もルネサンス宣言の中で、市民・地域・行政の総合力の発揮ということを強調しておりますので、ぜひ皆さんと力を合わせて、そういう取り組みが進められるようにして参りたいと思います。なおこの3か年の計画については、10年間を基本とする総合計画に基づく、向こう3か年の具体的な取り組みですので、どうしても全体的な大きいフレームを変えるという形にはなりません。これから具体的な取り組みを進めていく中で、ぜひいろいろご意見・ご指導を頂ければと思いますので、一つよろしく願いいたします。

それから補足ですが、先ほどのスポーツ課での指定管理は、行財政改革の中で取り組みを進めていく、市の部署で言うと調整課の方で事務局となってその進捗を管理しています。そちらとこの総合計画の実施計画の所が、お互いに役割分担をしながら、連携して計画を推進している所がありまして、先ほどの内容については、主に行財政計画の観点から整理されており、総合計画では記載されていない状況となっています。

丸山鎮委員 先ほどの補足で、藤島体育館が指定管理者制度となりますと、市の職員は全部引き上げの形となる。そうした時に体育協会とかスポーツ少年団とかの事務局、これまでやってきたソフト事業はいったい誰がやってくれるのか？これは体育協会の事務局だから、スポーツ少年団の仕事だから貴方でやりなさい、それでは、我々としては大変だし、今まで車の両輪のごとく体育振興を図ってきたにも関わらず、一挙に投げ出してしまうような形にはして欲しくない。そういう心配から話を出したのです。たんなる体育館の貸し借りの仕事だけではないのです。だから市の方から、体育協会や体育館関係の団体とよく打ち合わせしながら進めてもらいたいと思います。

高坂企画調整課長 ご意見について、所管課の方に伝えさせていただきます。

佐藤企画調整課主査 相馬委員の意見に補足ですが、総合計画本体の見直しについて、来年度、中間見直しの年で、基本計画の見直しを予定しておりますので、来年度、そういった議論を進めていきたいと思っております。

小野木覚会長 行革の話ですが、行革検討委員会で全て決めたということではなくて、地域ごとの審議をしてもらわないと困る。ただ机の上で決められては困るのです。その都度、行革検討委員会の状況を教えて頂きたい。決まってから教えるのではなくて、こういう状況で進んでいますということを教えて頂きたいのです。決まってからでは、なかなか直すというのが大変になる。ぜひ状況について中間報告をして頂きたい。

高坂企画調整課長 ご意見を所管課にお伝えしたいと思います。地域ごとというよりも、おそらく個々の取り組みごとに、それぞれの進み具合があると思います。それにつきましては、行革の観点、あるいは総合計画の取り組みの観点含めて、地域に根ざしている地域庁舎との関係の中で、いろいろな情報のやりとりが日々行われていくのが望ましいと思います。その上で行財政改革や総合計画が進められていく必要があるかと思えます。その辺も含めて、担当の方にお伝えしたいと思います。

今野総務企画課長 ただ今の意見、庁舎としましても、今、会長からありました意見について、担当の方に伝えて参りますし、庁舎としても本所の担当部署に伝えてまいりたいと思います。

阿部正良委員 健診受診率日本一を目指した施策とありますが、私、今年6月に健診で早期発見して、今、健康で暮らしています。ところが健診を受けなくて、症状が出てから医者に行くと、手遅れになって命を亡くしている方も、大分いると聞いています。ぜひ受診率が100%になる位の情報宣伝をお願いしたいと思います。

佐藤企画調整課主査 庄内の中で、鶴岡の受診率は進んでいると聞いております。それでも5割まではいっていないということで、その辺、担当課としてはより積極的に推進するよう取り組みを進めているようです。

今野総務企画課長 まだまだ、たくさん意見等あろうかと思いますが、ここでも出し切れなかった意見につきましては、紙で出していただきたいと思います。それでは総合計画実施計画の部分についての協議をこれで終了します。企画調整課の方々はここで退席いたしますので、よろしくお願ひします。

高坂企画調整課長 どうも、ありがとうございました。

(2) 鶴岡市地域コミュニティ基本方針の策定について(コミュニティ推進課より)
コミュニティ推進課より説明

(質疑応答)

小野木 覚会長 委員の皆さんから、なにかご質問等あればお願いします

阿部正良委員 うちの町内会では文化祭を行っています。こうした活動に対する支援はないのかどうか。それから老人クラブの育成をどうするか、計画では触れていない感じですが、どういった具体的な対策を考えているのかお聞きしたい。

門崎市民部次長 1つ目、町内会で独自に取り組んでいる事業に対する補助ということでした。現在、藤島地域では、町内会長に非常勤特別職ということで報酬の支出を行っておりますが、逆に町内会に対する運営補助金は出ておりません。また逆に鶴岡地域ですと、町内会長については市からの報酬等の支払いはありませんが、町内会の組織の方に運営補助金を支出しております。それぞれの町内会において、住民の皆さんからの負担金も含めて、地域の実情にあった活動をしていただいている所です。個々のお祭りとかの個別の補助は、市民部としての支援制度は持っていません。これも補助金を総合交付金化し、町内会に対する支援を包括的に取りまとめて、地域で活用しやすいような行政支援の仕組みに見直しをしてはどうかと考えているところです。

それから高齢者向けの組織の育成支援について、この計画では個々の世代間の組織に対する支援について明記はしていませんが、当然、地域コミュニティというのは、家庭から隣近所、町内会、小学校単位、中学校単位、全市という重層的な組織であります。その中で、地域力を高めるためには、世代間の連携も非常に大事だと思います。ご意見として承って計画に反映させるよう検討してまいりたいと思います。

佐藤一晴委員 平成26年度から現在の藤島地区の公民館は、地域活動センターに移行するというので、コミュニティの部分で今以上に強化されるのは分かりますが、社会教育としての側面の部分をどの様に補うつもりなのか、あるいは多少の後退はしょうがないと考えているのか、平成26年まであと1年しかありませんので、その辺の進展状況、内容を教えていただきたいと思います。

門崎市民部次長 藤島地域では、4月の下旬から5地区の公民館におきまして、本市のコミュニティ活性化の基本方針についての説明会を開きました。また5地区の公民館長との懇談会も2回ほど行っております。藤島地区の町内会での役員研修会での説

明なども行っております。また町内会長さんも鶴岡のコミュニティの実態について研修も行っており、今日ご出席の安藤会長さんも参加して、いろいろご協議、ご意見を頂いているところです。広域コミュニティ化について、現在はそれぞれ町内会単位で自治活動を行っている訳ですが、藤島地区の61町内会のうち7割が50世帯以下の町内会になっており、今後、ますます高齢化、少子化が進むなかで、その機能を補完する組織が必要になってくるということで、広域コミュニティ組織の育成と、活動拠点の整備と再編を掲げております。現在、藤島地区は社会教育法に基づく地区公民館活動を通して、独自性を持った地域づくり、まちづくりを推進されていると認識しております。これまでに培った社会教育事業・生涯学習事業の機能については低下しないようにしながら、それに加えて防災面とか地域福祉面とか、これからの地域課題の取り組みについても、担って頂きたいと考えておりますので、引き続き関係者の皆様に対して、12月には5地区の説明会を進めたいと考えています。

本間総務企画課主幹 私から補足します。4月以来、各地区の公民館運営協議会において、広域コミュニティの必要性についてお話しております。その後、旧鶴岡市内のコミセンの現状の視察ですとか、8月には藤島公民館の三役研修会でも説明しております。その間に、2回ほど地区公民館館長さんとも懇談会をしております。従来は、鶴岡全市の資料を基にお話していましたが、12月から地区単位の説明に入るため、藤島版の資料を準備しております。これから年末にかけて地区単位で説明し、その中で意見を頂いて、また年明け2月頃に説明する日程で進めていきたいと思っております。

佐藤一晴委員 質的低下を招かないようにという行政側の希望は分かりますが、それを実現するためには、予算とか人員の配置を伴う訳ですが、その分もある程度、従来と変わらないスタッフ、予算規模を想定しているということですか？

門崎市民部次長 そこが一番重要な事項だと思えます。館長さんとの協議の際に、これから数字等の提示をしていく段階です。今後の地区公民館の運営について、広域的なコミュニティ組織を設立してもらい、そこに施設の指定管理を受けてもらう、そこで生涯学習事業も進めてもらう考えでおります。したがって職員の採用についても、市での直接雇用でなくて、広域的な組織の職員採用という形を考えています。それから教育委員会で直接支出している生涯学習事業も、生涯学習事業補助金という形で支援を行っていきたいと考えています。まだ具体的な行政支援の金額まで示す段階ではありませんが、活動の低下にならない様な支援の確保に努めたいと考えています。

佐藤一晴委員 今の公民館の行事内容を見ると誰でも出来る仕事ではない。それなりの能力を持っている方が、それなりの内容の事業をやっている。新たにどんな人を雇うのか行政はタッチしないとのことですが、待遇とかを考えると、質的低下を招くことは間違いないだろうと考えています。

高山千代子委員 私も佐藤委員の意見にまったく同じなのですが、地域活動センターに発展的に再編とありますが、藤島地区の公民館は5か所ありますが、その再編も在り得るのでしょうか？それから職員配置と待遇の方も、今までより悪くなることのない様に配慮をお願いしたいと思います。

富樫達喜委員 私も佐藤委員とまったく同じ意見です。人間、この世に生まれて最初に受けるのが家庭教育で、それから学校教育、社会教育とあるなかで、最近、それぞれの分野で教育がしっかりいかない面が多々見受けられます。家庭教育や学校教育で足りない面を、社会教育で受け止めていると思います。これからどうなるのか心配しています。今まで積み上げてきた公民館活動のノウハウをしっかりと引き継いでもらいたい。それから総合交付金化、今までいろいろ出していた補助金が、全て交付金化されるのか、一部は従来通り補助金として出すのか、その点について、質問をしたいと思います。それから「代表、個人への負担が増すことのないように制度を見直します」とありますが、行政としては従来通り町内会長からは協力をしてもらわないと容易でないという表現なのかなと思います。その点についてお聞きしたい。

門崎市民部次長 高山委員の質問について、藤島地域では、現在、5地区ごとに説明しておりますので、その方向で検討を進めています。それから職員の配置については、公民館長からも言われている所です。現在の市の直接雇用形態では、基本的に5年単位の雇用という形になっていますが、それも地域雇用という形になれば継続雇用もできる訳で、処遇についても地域での検討事項になると思いますが、それも行政支援がベースになりますので、できるだけ配慮していきたいと思います。それから総合交付金化の話ですが、現在、町内会長を非常勤特別職として町内会長へ報酬を出している地域、それから組織に対する運営補助金を出している地域もあります。それから全ての地域にある訳ではありませんが衛生関係の業務に対する交付金、それから防犯灯に関する補助金、藤島地域では防犯灯に対する補助金はありませんが、鶴岡地域では電気料の95%を補助している。それから修繕に対する支援も違います。これは鶴岡と藤島だけでなく、6地域の中で違いがありますので、こうした町内会等の単位組織に交付しているものについて、総合交付金化という形で取りまとめていきたいとい

う考えです。それから当然、特別職としての有無に関わらず、町内会長さんの果たす役割は非常に重要です。これは変わりありません。引き続き、単位組織の活動支援にご協力いただきたいと思いますし、市との関係についても引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

丸山鎮委員 私、公民館運営審議会委員をやらせてもらっていますが、公民館をなくしないでくれという声が強ひのです。ところが旧鶴岡市がコミュニティセンターという形のため、それありきという感じで行政も進められている。藤島地域の良さは無くして欲しくないと思ひています。

安藤良昭委員 広域的なコミュニティ組織の事務局職員の今後の手当は、どういふ風になるのか。以前、聞いた話では極端に落ちると聞いています。給料を我々が直接聞くわけにはいかないので、どの位になっているのか。それと地区担当職員制度の導入とあるが、これは行政側から給料が出るのでしょうか？

本間総務企画課主幹 現在の公民館職員の給料、待遇について、現在の所、50代後半の職員ですと25万円位です。30代半ば位の職員ですと、15・6万円位です。

佐藤一晴委員 手当もあるので、年収ではどうなりますか？

本間総務企画課主幹 毎年、手当は減じていますが、手当は夏・冬あわせて昨年は1か月分です。ですから25万×12か月+1か月分とご理解いただきたい。

門崎市民部次長 地区担当制は、市の職員が本来業務とは別に各地域の担当職員という形になって、より地域の状況・実情・課題等を把握し、地域の皆さんと一緒に地域づくり活動を進めていく手段の一つです。内容については、これから具体的に検討を進めていきます。温海地域では、今年度で4年目ですが、単位自治組織に担当職員をつけて、年2～3回、課題を設けて座談会等を行っております。ただそれぞれの地域で住民組織の形態の違いがあります。組織の数も藤島は61ですので、どの単位に職員を配置するか、どのような活動支援を行うのかは、それぞれ地域の実情に応じた対応が必要なため、これから検討を進めていきます。市の職員の給与の中での対応ですのでよろしくお願ひします。

丸山鎮委員 これではダメだと思ひます。公民館という良さを生かしてもらいたい。

門崎市民部次長 繰り返しになりますが、公民館をなくす訳ではありません。これから将来に向けて、町内会の機能を補完する、これからの地域づくり・まちづくりの課題に対応するための広域的な組織を設置するのが大前提です。その活動の拠点として地区公民館を利用して、社会教育法に基づく学習活動のみならず、地域課題に向けた事業についても取り組んで頂きたいということであって、藤島地域でこれまで取り組んできた社会教育事業については、引き続き行っていただきたいと思いますし、その機能をなくすることではありません。それぞれの地域でどのような運営を行うのかは、検討して頂きたいと思います。それから安藤会長からもご覧頂いておりますが、鶴岡地域のコミュニティセンターでも貸し館だけでなく、それぞれ社会教育事業にも取り組んでおりますし、地域づくり事業にも取り組んでいる。そういう実態もある程度認識を頂いていますので、その辺、皆様からも実情をご覧いただきながら、一緒に考えながら検討していきたいと思います。

奥山康光委員 一番末端の町内会は、家族の次にくる組織だと思います。どの町内会でもお金がないので、やりたいことが出来ないというのが実態だと思いますし、農地・水環境保全向上対策の活動費の中でいろいろな活動をしているのが実態です。この農地・水対策も何時まで続くか分からない状態ですし、事業をやりたくても助成とか交付はないのかというのが必ず出てくると思います。もっと使いやすい助成金・交付金を用意してもらいたいと思います。

門崎市民部次長 総合交付金化については、たとえば世帯数とかをベースにする基準もありますが、それぞれの地域で取り組むような事業に対して支援するような制度の導入等にも検討を進めて参りたいと考えています。

丸山鎮委員 たとえば地区公民館に、福祉・防災・地域づくりを活発にするような地域活動センターを併設する形はできませんか？そうすれば慣れ親しんだ公民館の名前がなくならないで、その活動も主体にしてやれる訳ですので、その辺、行政の方で旨いこと考えてもらいたいと思います。

小野木覺会長 はい、ご提案、勉強をお願いします。きりがありませんので、いったん区切りまして、本所の職員の皆さん大変ご苦勞様でした。これにて鶴岡市のコミュニティの基本方針の素案の説明を終わらせてもらいます。また何かありましたら地域審議会で話あったことを伝えてもらいたいと思います。よろしくをお願いします

門崎市民部次長 本日は、どうもありがとうございました。

コミュニティ推進課 退席

暫時休憩：阿部正良委員、澁谷俊一委員退席

(3) 藤島地域審議会の審議テーマ(案)について

小野木覚会長 藤島地域審議会の審議テーマ「藤島の魅力を活かした交流人口の拡大方策について」ということで、議論の視点が3つあります。この点について、皆さんからご意見・質問等があれば、お聞かせ願いたいと思っております。

今野総務企画課長 前回の地域審議会で地域課題を皆さんから挙げていただきました。課題は沢山ありますけれども、前回、テーマが4つもありましたので、論点がいろいろ反れたと言った事もありましたので、一つに絞って皆さんからご議論いただいて、市長に提言したいということで、前回、お話をさせて頂きました。

今回は、藤島の観光を考えたらどうか、それから藤島の地域・農業を活かした観光などの意見が出されております。そういった中で、この度のテーマにつきましては、大きなテーマとしまして「藤島の魅力を活かした交流人口の拡大方策について」とさせて頂きました。あと皆さんから出された様々なご意見を、議論の視点ということで、サブテーマという形で設けさせて頂きました。今回は、皆さんからこのテーマや、議論の視点につきましては、ご意見ございましたら出して頂き、テーマを決定したいと考えた所です。よろしくお願いいたします。

また日程についてですが、今年度につきましては、とりあえず次回は2月頃に開催したいと考えております。新年度につきましては4月・5月で1回開きまして、その後、このテーマについて、最低でも3回くらいの議論を経て、来年の12月に市長への提言に持っていきたいと考えております。

丸山鎮委員 議論の視点で、4つのテーマが出されておりますが、これは会長さんと事務局とでまとめてくれた訳ですが、いろいろ課題を持って提言されたと思います。たとえば「庄内農業高校との連携による地域活性化策について」とありますが、これは狙いは、庄内農業高校を残したいという藤島住民の一途な願いからそういうテーマが出てきたと思います。ですので、それぞれテーマの目的を説明して頂ければ我々も話が進めやすいのかなと思います。

今野総務企画課長 庄内農業高校との連携といった部分については、まさに丸山委員の言う通りでございます。高校再編が騒がれていますが、今まで110年ほど続いて参りました庄内農業高校との地域との関わり、それから今後の連携についてどうあれば良いのか皆さんから意見を出してもらって市長に提言していきたいという趣旨のものでございます。それから「農業資源を活かした交流人口の拡大」については、前回は委員の方々から、藤島はやっぱり農業のまちで、農業施設が藤島地域には沢山ある。そういったものを活かした観光、交流人口の増を図ってはどうかという意見も出されましたので、この議論の視点とさせていただきました。同じことですが、今後できます歴史公園におけるフジを活かした交流人口の拡大、観光といった部分をあえて名前から外しまして、交流人口をいかにして拡大していくべきか、どう地域の活性化につなげていくべきか その方策などを皆さんからご議論いただければということでございます。

小野木覚会長 はい。わかりました。水田農業試験場は、非常に優秀な試験場だということで、しょっちゅうマイクロバスが来ている。ところがそこで勉強して、ずっと帰るものですから、それを何とか、県の行政機関と地域の行政機関がタックルを組んで、いかにお出でになった方々が何処かで休む、あるいはお金を使ってもらえるようにする。フジ公園とかも含めて、交流人口を増やそうと。もちろん丸山委員の指摘の通り、庄農は一昨年に110周年過ぎた訳ですが、内陸の農業高校が1か所、庄内に1か所しか無い訳で、農業高校をここから無くしてしまうと困る。ふれあいセンターにも、ちょうど今の時間帯で30人~40人位子供たちが来る。ここで腹がへって家に帰るまでの胃袋を塞ぐ程度の食事をしていく。学校をなくしたら、これどうなるんだろう。農業高校の卒業生の方々が、一生懸命、どこかでしゃべっているようだけれども、公の場所でドンと出てこない。地域審議会の皆さんからきっちりと足並み揃えて、ここに必要なんだと、決議文のようなものを書かないとおかしいのではないかと。皆さん、どういう思いで今、将来像を描きながら、この学校と、それから農業資源、あるいはフジ公園というものを眺めて、この藤島地域を位置づけていくかということで、それぞれの思いをしゃべってもらいたい。それをまとめて、市の方に提案していく。ぜひお願いします。

それから JA の齋藤専務いらっしゃいますけど、庄内農協乳業の跡地活用は、どのような状況なのでしょう？もし、よかったらお願いします。

齋藤泰宏委員 はい。今、小野木会長さんの方から、庄内農協乳業の跡地の件の話されました。今年の3月に、庄内農協牛乳が廃止・閉鎖になりまして、以来、ああいう

状況にある訳ですけど、所有は全農になります。全農でも遊休資産を早く処分をしたいということで、食品会社だとか関係各方面に呼びかけているんですが、今の所、買い手がみつからないという状況にあります。あそこは食品工場ということで、大規模な浄化槽と地下水等大変良いものがあるって、食品工場等があればということなんですけど、なかなか最近の社会状況が悪く、おいそれとはいかない状況です。売却先については、現在の所、未定ということで、私としても藤島地域の活性化のために早く有効利用を図りたいと努力はしていますが…。

小野木 会長 はい。そこで、もう一度、提案したいのですが、農業高校には、昔から「ニューピス」いわゆるカルピスですが、これを今も作っていますが、ただ販売ができない。子供たちの研究でニューピスは作るのですが、これが凄く美味しいんです。でも表向き販売ができない。それにソバも作っている。ですが販売ができない。今、農業の6次化ということが歌われている中で、もし仮に農業高校が合併するとして、私の提案としては、加茂の水産高校と一緒になれば、船に乗る分野は別としても、加工分野ならば、一緒にできる訳で、加茂水産にはその施設がありますが、それをまとめて庄内乳業の跡地に位置づける。学校の教材、勉強の教材の施設という形をとれば、非常に面白いのではないかと。前にそうした提案をした。ところが立ち消えになっているものだから……。たしかに農協さんにとって見れば、農家から6次化されると農協の死活問題だということは、よく分かります。けれども、そういう時代は過ぎました。何も出来ない農家の人を支援するのが農協で、一人で歩ける人には一人で歩いてもらうような、そういう政策に変わってきているのではないかと。だから農協の仕組みも変わると同時に、学校での教材も変える必要があるのではないかと。そう思っています。農協さんと農家が、競争でなくて、競合しながら、共に生きる道を選択していく。そういう形の、いわゆる教材施設にしたらどうなのかと思っています。そうすると農業高校というよりも、実業高校という名前に変えれば、非常に格好いい。今、格好いいか悪いかは重要で、農家だというと格好悪いので嫁に行かない、ところが農家でなく、6次化産業株式会社なんて言えば、面白い、そこになら行ってみようかとなる。ネーミングを変えただけでも、がらっと変わる。そういう時代なので、ぜひJAさんからご協力願いたい。そうすると農業高等学校の位置付けがはっきりしてくるなと思います。今日、農業高校卒業生がいっぱいいますので、皆さん如何ですか？

相馬大 委員 子供が元気にやっているのは明るい地域だと思います。一つ具体的な例でよく出てくるのが、三重県の「まごの店」というもの。三重県立相可高校の食物調理科の高校生が土・日だけレストランを開くんです。そこが猛烈に人が入るんです。

高校生が、自分たちでレシピを作って、ちゃんと先生もついていて、営業免許はどうなっているか分かりませんが、実際に高校生が店の運営までやっている。隣には「おばあちゃんの店」という産直施設もあって両方が繁盛している。その地域の高校生が凄く元気なんです。これがある事によって、他の人も集まる。こうした良い例が全国にあります。庄農は、絶対ここにはないと困るんですよ。アイデアがあるのは今のうちで、社会に出る前、あっちゃくさいことができるうちに、色んなことをやって、おもいきり実験できる場所、それが庄内農業乳業さんの所がいいのか、どこが良いのかは分かりませんが、そういう所がこの地域にあれば、庄農の存続だけでなく、若者が集う街になれる。子供たちが明るい街であれば、そこに越してみようか、定住しようかという人が増えるはずなので、庄農の生徒に色んなものを任せてみたいですね。役場の空き部屋がいっぱいあるのであれば、アイデアがあれば自由に使っていいとか。あっちゃくさいこともいっぱいするかと思います。あっちゃくさいことをやるうちがアイデアの花なので、そういう所を潰さずに伸ばしてやる地域ということになれば、鶴岡の中でも圧倒的な優位性を持てるのではないかと思います。

佐藤一晴委員 庄農について、現実的な話として、少子化になっているし、庄農に希望する入学定員も、我々の時代だと、昔は競争率が高くて落ちた人もいっぱいいた。今は残念ながら少し定員に満たないという状況が続いているので、やはり今のまま存続して欲しいと言っても、行政としても、お金の部分もあるので、ちょっと無理かなと思います。そうならば、さっき会長さんが言った様に、加茂水産高校との合併しての実業高校、この地域の中での学校再編をお願いするのか、あるいはもう一つの方法としては、県内のたとえば最北地方だって農業が盛んな地域なので、そこまでターゲットを広げて、全寮制にして生徒を集めたり、従来の農業でなくバイオテクノロジーを学べるようにして、非農家で一般の頭の良い子供たちを受け入れられるような高校にして、希望すれば農大だとかバイオの方面に進めるようなシステムも構築できれば、学校の存続も可能だと思う。広域的に考えるか、地域の中で総合高校を目指すか、やっぱり庄農は、今のままの単独では無理だと思う。そんな感じで考えていました。

小野木覚会長 たしかに農業高校も、県内では、庄農高と、置賜農業高の二つになってしまった。村山も、新庄も産業高校になった。だから本当に、どんどん狭められてきて、今、佐藤委員がおっしゃる通り、バイオだとか山大的農学部が鶴岡にある訳だから、そうした連携をしながら、むしろ地域の子供たちだけでなく、羽黒高のように全国から募集しておいて、寄宿舍も新しく作って、それやったら凄い、面白さが出てくると思う。だから、そこまで本気になって皆で向かえば……………。

佐藤一晴委員 そういう方法でしか存続するのは難しいのではないか。

小野木覚会長 どの高校も定員割れしているのに、羽黒高校だけは定員オーバーするほど集まる。学校だって学校経営だと思う。皆の意見をどんどん聞いて本気になってやれば、学校存続と同時に交流人口あるいは定着人口、3年間必ず寄宿舍に入る訳だから、そうしたら結構にぎやかになるのではないか。

農学校に行く子供たち、前はゾロゾロと歩いたものだが、今はポツポツとしかいない。なんか寂しさを感じます。地域活性化ということは、言葉は簡単だが、本当に難しいこと。出羽商工会でも、これからの少子化に向けての勉強会をしたが、簡単に言うと、つける薬がないのが実態だ。だから皆さんの意見一つずつは面白いし、楽しいのだけでも、じゃあこれというのがない、一つこれをやると、まとまっていかないと…。せめて農業高校に寄宿舍を新しくつくって、位置付けられたら凄い。それが産業高校であったり実業高校だとしても、その内の農業科とか、加工科とか位置づけていけば、いいのではないか。今日は、みなさんからその気になってもらいたくて、ぐっぐと絞って3つにしてみました。

齋藤泰宏委員 農業資源は、いろいろな捉え方があると思いますが、農業施設の関連で言えば、手前味噌ですが我ども庄内たがわ農協の本所がある、普及センターがある、試験場がある、庄内農業高校がある。やはりこのコンパクトな地域に、これぐらいの施設があるのは、私、滅多にないのかなぁと見ております。ご承知の通り、酒田の山居倉庫は酒田を代表する観光名所ですが、藤島の駅前倉庫も作りは同じですので、こういった眠れる施設をもっと有効活用して、なんとか人を呼べないかと個人的に思っています。それで例えばマップを作るとか、あるいは立て看板を国道345号線とかの人目に付く様な所に設置するとか、マップの大きいものを設置したりとか、大型バスが周遊できるような環境整備を図るとか、そういった類のものがあってもいいのかなぁと、これだけ恵まれた農業施設があるのはもったいないなぁと常々思っています。予算を伴う考え方ですので、出来る出来ないは別として、少し考えて頂きたいと思えます。以前、宮城県の登米町を視察した機会がありました。明治時代に立てられた小学校をそのまま観光資源に生かした施設があって、都会から郷愁を呼ぶということで人気のスポットでした。駅前倉庫もそうですけど、施設を有効活用する方法を考えていけば、藤島は庄内農業の核となる、キーポイントとなる場所ということで、庄内農業高校の存続という雰囲気も出てくるのかなぁと思います。それから私ども農協にも、県内はもちろん首都圏からも仕事の関係で来客があります。そうすると時間がある時

に、近くに食べる所はないか、見る所はないかとなりますが、なかなか観光地はないものですから、藤島で特有の食べ物、昔はそれこそ上鉢の肉うどん、今は笹川食堂に行かないと食べられませんので、藤島はコレだというものが必要なのかなあ。昔は藤島は蕎麦屋がいっぱいで、どこにいても食べられるようでしたが、今は、藤島町内にも蕎麦屋がなくなってきて、その辺、交流人口も不足しているのかなと思います。いわゆる食と農ということで、少し展開の可能性はあるのかなあと、いい加減な話になりますけども、ご検討をお願いしたいなあと思います。それでもう一つ、うちの農協に大型バスで来る時に、旧石川屋さんのカーブがキツイのです。あそこ側溝工事も行われたようですが、もう少し緩やかなカーブにできなかったのかなあと思っているのですが、全農の駅前倉庫も大型の配送がかなり通るものですから、あの角が狭い。駅前の道路が拡張されますが、あの角も少し緩やかに曲がれるようお願いできればと思います。

小野木覚会長 はい。話せば切りがないので、ここでいったん締めたいと思います。今日はこの後に、懇親会も準備しておるようですので、その肴を前にしながら、このテーマを続けてもらいたいと思います。よろしいでしょうか？

今野総務企画課長 最後に支所長の方から一言

中村支所長 本日はお忙しい所、長時間にわたっての審議ありがとうございます。今日はテーマの確認で、なにかご意見あればとのことだったのですが、なんか熱がこもりまして、いろいろ議論に発展したようでございます。話を進める中で、いろんな考えやご意見が出てくるかと思えます。藤島には、これといったものがあるようで意外と探してみるとない。農業関連資源はいろいろありますが、点でしか存在していなかった。前回の審議会の中でも出ましたが、藤島には個別には良いものがあるのですが、点を線で結ぶ、あるいは今ある資源を更にことが必要と思えます。それから今度、歴史公園ができますが、これは藤の花の拠点の場所ですので、こうしたものを活かして、さらに人を呼ぶ。人を呼べば、経済的な効果も出てくるだろう、藤島はいい所だと他所からも思っただけ。また地域の人たちも藤島ってこういういい所があると、はっきりと口に出して言えるような誇りを持てるような所をつくっていきたい。地域審議会は庄内農業高校の存続を要望する会ではありませんが、せっかくある庄内農業高校ですし、今までいい活動を色々やっておりますので、子供たちが学校や地域との関連の中で、3年間という高校生活が本当に楽しかったと、庄農に通って良かったなと思ってもらいたい。中央高校のシルクガールズではないですが、そういった視点か

ら、今までの資源、これからできる資源を利用して、少しずつ衰退している藤島にもう一度にぎわいを取り戻す。いきいきとしたまちづくりをしていく。そのためにも、次回からの議論をしていただければと思っております。

それから私からのお願いでございます。もう一つの地域資源であります「ぼっぼの湯」ですが、昨今の経済状況や志向の違いがあるのか、他の施設もそうですが、全体として利用客が減っており、かなり厳しい経営環境にございます。そういった中で、せっかくある資源を地域の方が盛り立てていかないと、いずれどうするかという議論になって参ります。まずは地域の方々からご利用いただく、例えば老人クラブの皆さんがグランドゴルフをやって、汗を風呂で流して、その後一杯やっていただく、そういった形でぜひ団体の代表でもある皆さんから利用の拡大、検討をいただければ大変ありがたいと思います。よろしく申し上げます。本日はお忙しい所、長時間のご審議ありがとうございました。

4、閉 会

今野総務企画課長 それでは、これを持ちまして、本日の地域審議会を終了とさせていただきます。本当に長時間ご苦労さまでした。なお、次回は2月頃の開催を予定しております。本日はどうもありがとうございました。